

町田の火消コース

【スタート・ゴール】市役所水府支所(町田町163-1)

▼距離…約3km ▼時間…約2時間

てくてく
ウォーク

121

今回は、第200回西金砂神社小祭礼の執行を記念して、町田の火消行列にちなんだコースをご紹介します。西金砂神社小祭礼は国家安全・五穀豊穡を祈る祭りで、弘仁6(815)年以来、6年ごとの丑年、未年に行われてきました。町田の火消行列は、小祭礼の行列に供奉し、祭場に入る先導を務めます。元文4(1739)年の春、小祭礼を拝観しようとたくさんの人々が集まってきた際に、留守宅2力所から火災が発生したことを憂いた町田の医師、土岐千角の尽力により、延享2(1745)年の春、はじめて小祭礼の神輿渡御前駆として供奉されたと伝わっています。町田の歴史に思いを馳せ、春の風を感じながら、ゆつくりと歩いてみてはいかがでしょうか。

*第200回小祭礼は新型コロナウイルスの影響のため、神社で神事などを行う「居祭り」となり、参列者を限定して執り行われます。町田の火消行列、田楽舞は行われません。

① 土岐千角医師の墓



町田火消行列の創始者で医師です。地域の方に大切に管理されています。

② 二十三夜尊



水府小中学校に行く途中にある昭和3年1月建立の二十三夜尊です。

③ 六地藏・庚申塚



階段を登った小高いところに、六地藏と庚申塚があります。階段幅が狭い為、ご見学の際はご注意ください。

④ 町田焼窯跡



町田焼は水戸藩九代藩主の徳川斉昭が産業振興の一つとして行った製陶事業です。

⑤ 持照院跡



たくさんの石碑、石仏が集められています。

⑥ 町田火消行列宝物庫



火消行列関係の書類や装束類、各種道具が收藏されています。この宝物庫(石蔵)は、昭和41年12月に建造されました。



ちょっと一息

町田に伝わる昔話「へつぱり嫁さん」
老夫婦の息子の三吉が嫁取りをした。働き者で気立ても良い嫁だと皆で喜んでいたが、嫁はだんだん顔が青ざめて元気がなくなった。「腹が苦しい…」という嫁に婆さまは「腹が張るなら屁をしてみろ」と言った。嫁が「ごめんなんしょ、ぶーっ」と思い切りしたので、婆さまは屁の大風「あーっ」と高く飛ばされ腰を打って大けがをしてしまった。嫁は「はあ、出ていくなねえ」と実家に戻った。婆さまを心配した嫁がお見舞いの山鳥と柿を届けると、「優しい心根の嫁だあー」と嫁を再び呼び戻して仲良く一緒に暮らした。